

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3874000353
法人名	社会福祉法人 御荘福祉施設協会
事業所名	グループホームみしょうの里
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城2020番地
自己評価作成日	平成24年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

民間改修型のグループホームのため、今までの生活の延長線上にあり、安心感のある暮らしが送れていると思います。共有の場(居間・風呂場・トイレ等)が一般家庭の広さのため、狭くて介護する上で大変苦勞していますが、協力し合って元気に明るく頑張っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年7月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●地域の方がよくお参りに行く、近くの四国八十八か所の札所に利用者もよくお参りに行かれており、知人に偶然会うことも多いようだ。ご家族と馴染みの美容室に出かけた際には、ご自宅で食事されたり、お盆やお正月には外出や外泊する方もあり、お盆にご家族とお墓参りすることを心待ちにしている方もいる。母体法人で発行されている便りには、事業所の取り組みも載っており、利用者とともに地域の方々に配っておられ、その際、友人と話したり、お知り合いの方のお宅に上がらせてもらい、お茶をいただくこともある。

●利用者の状態変化ごとにご家族と話し合いを持ち、かかりつけ医やご家族と協力し合って、看取りを支援された事例がある。ご家族は夜間泊まったり、日中も職員と一緒に看られた。看護師資格を有する職員に、24時間いつでも連絡がつくようにして、いざという時には駆け付けれる体制を作り、職員の不安軽減にもつながるよう取り組まれた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームみしょうの里

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

北原恵理

評価完了日

平成24年6月22日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を基に利用者一人ひとりに、その人らしい生活を送っていただけるような支援を心掛けているが、職員サイドの考えになっていることもあるため、ミーティングや職員会議で話し合い再確認をしている。 (外部評価) 事業所は、「日々の暮らしの中で語り合い、その人らしい生活を支援する」という理念を掲げておられ、職員は、利用者一人ひとりの、「その人らしい生活とはどのようなことか」ということを話し合いながら、理念の実践に向けて取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の老人クラブとのカラオケ交流会や月一回の保育園児の来訪があり、利用者も喜ばれている。他にも各行事(ソーメン流し・花火見物・地方祭・クリスマス会等)や避難訓練、運営推進会議等協力していただいている。日常的には野菜などをいただくことはあるが、ホームに立ち寄ってゆっくりと話したりといった交流は少ないように感じている。 (外部評価) 花火大会時には、事業所で夕食を準備し、近所の方達と楽しく見物されている。又、事業所のソーめん流しやクリスマス会等の行事時には、地域の方もお誘いして交流されている。近くにある保育園の園児が毎月遊びに来てくれており、帰り際には利用者から、「もう帰るの？もう少しおってや」という声も聞かれるようだ。秋祭りには神輿が事業所に来てくれて、利用者は担がせてもらったようだ。介護実習生が来られた際には、事業所の前の川に流されていた流木を実習生と一緒に磨き、作品を作られた。作品は、母体介護施設の文化祭に展示して地域の方達にも見ていただいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や地域との交流の中で、以前より認知症についての理解を深めていただけていると思う。要望があれば実習生やボランティアを受け入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 二ヶ月毎の運営推進会議で利用者の状態や日常の活動内容、行事予定等報告している。話し合いのなかで気づきや質問、意見をいただき、サービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、地域代表の方が司会進行を行ってくださっている。会議を通じて、地域の方達に利用者一人ひとりの状態を報告して、知ってもらったり、災害時の協力もお願いされている。地域代表の方から、「園児との交流もいいが、4～5歳児の子どもさんとの交流もいいのではないかと提案等していただき、月に1回、他保育園とも交流が始まっている。会議時に、地域行事の情報を教えていただき、職員は利用者と出かけておられる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 二ヶ月毎の運営推進会議に町担当者の方へ出席していただき、ホームの活動内容や行事予定等を報告している。また、行政の介護保険の動向や実情等を伺い、意見をいただいている。日頃から連絡を取り合うといったような協力関係はあまり築けていない。</p> <p>(外部評価) 町から国の実地指導の打診を受け、5月末に受けられた。そこで、居室ごとに仕切りはあるが、「居室ごとに屋根裏も仕切って煙の蔓延を防ぐよう」指導があり、調査訪問時、工事されていた。町内の地域密着型サービス事業所の集まる機会を3ヶ月ごとに自主的に行っておられたが、まとめ役の方が不在となり、休止状態となっている。今後、町の担当者や地域包括支援センターの協力を得ながら、活動を再開して「同業者と意見交換したり、協力し合える関係を作っていきたい」と考えておられた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 月一回実施される母体特養での身体拘束高齢者虐待防止委員会や職員研修会、南予地区研修会等に参加して研鑽している。職員会議のなかでも話し合いをもち、職員全員で周知し拘束しないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 法人内の、「身体拘束高齢者虐待委員会」では、各事業所の事例を報告して、対応策について話し合っておられる。「帰りたい」という気持ちのある利用者が一人で出かけて行かれたり、又、他者を傷つけるような言葉を発したりするようなこともみられたが、職員で話し合い、ご自宅に戻ってみられたり、気分転換に散歩されたり、食材の買い出し等に誘い、職員がそばで見守りながら対応され、状態が落ち着いた利用者の事例もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 月に一回実施されている身体拘束高齢者虐待防止委員会や職員研修会に参加して学ぶ機会を持っている。また、チェック表等において職員全員で再確認を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 南予地区研修会や母体特養での職員研修会に参加し、知識を深めるための勉強会を行っている。また、ホームにおいても利用者一名が成年後見制度を活用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用契約に関する説明書を見ていただき、疑問点や不安、心配な点をお聞きしながら説明を行い、理解と納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の方については日頃の言動から思いを汲み取れるよう努めている。ご家族には面会時や電話等で意見や要望等と言って頂けるような雰囲気作りに留意しているが、具体的な意見を言われることは少なく、意見交換の場の機会を設けていく必要がある。 (外部評価) ご家族の来訪時、管理者は、「遠慮なく何でも言ってください」と伝えておられ、ご家族は、利用者の様子をみながら、感謝の言葉を伝えてくださったり、利用者の状態によっては、「転倒やケガのないようにお願いします」と言われることもあり、職員で共有して取り組まれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			日々のミーティングや月一回の職員会議に施設長や担当事務職員も同席し、意見を出し合い、話し合いを行っている。決定された意見や提案を反映させるよう努めている。	
			(外部評価)	
			現場職員からのケアや業務についての提案やアイデアは、「まずは試してみる」ことに取り組んでおられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			人事考課表の活用や個別の面談等を行い、職員の意見を聞いて状態を把握している。また、現場に足を運び、業務の様子を観察し、職員が向上心を持って働けるよう助言や指導を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			職員研修会や南予地区研修会、介護作成担当者研修等に参加し、知識や技術を学び、資質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			母体特養発刊の機関誌を送付したり広報誌が送られてきたりして情報交換をしている。また三ヶ月に一回の町内のグループホームや小規模多機能施設との地域密着型連絡会議を開催しお互いの情報交換等を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前に自宅を訪問し、利用者本人とご家族から話を伺う機会を設けている。利用者の様子や思いを報告し職員全員で受け止める努力をしている。不安な様子であれば日中2～3時間程ホームで過ごしていただき安心へと繋げている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前にご家族からの心配事や不安な事や要望等を十分に伺っている。ご家族の思いに真摯に対応し、今後も気楽に何でも相談してもらえるような信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、ご本人やご家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提供を行い、必要なサービスに繋げるよう支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として教わる事が多く、そんな場面では必ず感謝の言葉を伝えている。今までの人生のなかで培ってこられたことに対して敬意を払い、楽しく穏やかに生活していただけよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と情報交換を行いながらご家族の思いを把握し、利用者本人との良好な関係を今後も築いていけるよう、職員もその思いに応えられるよう信頼関係に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの知人や親戚の方が時折訪ねてこられ、積もる話に花を咲かせたり、長年住み慣れた郷里に帰り、懐かしがられたり、これまで大切にしてきた馴染みの関係や場所が途切れることのないよう支援している。	
			(外部評価) 地域の方がよくお参りに行く、近くの四国八十八か所の札所に利用者もよくお参りに行かれており、知人に偶然会うことも多いようだ。ご家族と馴染みの美容室に出かけた際には、ご自宅で食事されたり、お盆やお正月には外出や外泊する方もあり、お盆にご家族とお墓参りすることを心待ちにしている方もいる。母体法人で発行されている便りには事業所の取り組みも載っており、利用者とともに地域の方々に配っておられ、その際、友人と話したり、お知り合いの方のお宅に上がらせてもらい、お茶をいただくこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格や特徴を把握し、利用者全員が居間に集まり、楽しく過ごせるよう支援している。毎日のお茶や食事時間は職員も一緒に会話に入り、利用者同士の架け橋となり、関わりが持てるよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 死亡や入院で退所された方のご家族がホームに足を運んできて下さり、近況を伺ったり、近くのスーパーで会った時は声を掛けられたりして思い出話に懐かしんだりと関係を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉のみならず表情や行動、態度からもご本人の思いや気持ちを汲み取ろうと努めている。今、何を考え何を求めているのか見過ごしてしまいがちであるため、しっかりと向き合っていけるよう努めていく。 (外部評価) 利用者の重度化に伴い、利用者の思いや意向を把握することに難しさもあるようだが、日々の暮らしの中でご本人が発する言葉や表情から、ご本人の思いを汲み取ることに努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用されるまでに自宅等を訪問したり、ホームへ来ていただいてご本人やご家族からこれまでの生活歴や環境等聴き取るようにしている。また、職員間で情報を共有できるように話し合いを行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの心身の状態や生活リズムを把握し、得意なこと、出来ることをしていただき、喜びや満足感を持ってその人らしい生活が送れるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 面会や電話等でご家族からの希望や要望をお聞きしたり、一緒にカンファレンスに参加していただいて利用者ご本人の思いをお聴きし、介護計画に反映できるよう職員間で話し合い、作成したりモニタリングを行っている。</p> <p>(外部評価) ご家族に暮らしやケアについて要望をお聞きしたり、カンファレンスに参加していただき、一緒に介護計画について話し合っておられる。3ヶ月ごとに介護計画を見直しておられ、すべての利用者に、「24時間生活変化シート」を使用してアセスメントされ、個々の暮らし方等もみながら計画を作成されている。退院時等、状態変化時には、その都度、状態等に沿った支援ができるよう介護計画を立てておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別のファイルにサービス内容の実践や評価等を記録し、日々の様子については、短文ではあるが毎日の出来事や気づきを等を書いている。また、介護計画見直し時には24時間生活変化シートを活用している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご本人やご家族の状況や要望に応じたサービス内容になるよう努めているが、三ヶ月毎の見直しのためサイクルが早く、同じようなサービス内容になってしまっている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地区や民生委員の方に参加していただきながら運営推進会議を行い、話を聞いていただく機会を設け、地域の方と交流できる場を提供してもらい、繋がりが持てるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族が希望するかかりつけ医で受診を行っている。受診時はご家族に対応していただいているが、都合がつかない時は職員が対応したり送迎を行っている。また、かかりつけ医への報告や、相談等を行い連携を図っている。	
			(外部評価) 利用者の定期受診の際には、ご家族が付き添われているが、ご家族が対応できない場合には、事業所で同行されている。時には、利用者を病院まで送迎して、ご家族が受診に付き添われることもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員を配置しており、常に利用者の健康状態や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。母体特養の看護師も週に一度来訪し、利用者の状態把握に努めるなど体制を整えている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞いに行き安心とストレス軽減に向けて支援している。ご家族とも情報交換しながら回復状況等、速やかな退院支援に結びつけている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化に伴う意思確認書の作成、説明を行い同意をもらっている。ご本人やご家族の意向を早い段階でお聞きし、対応が可能なこと、困難なこと、不安等の話し合いを行い、かかりつけ医との連携のもと、ホームで利用者2名を最期まで看取り、ご家族からも労いのお言葉をいただき喜ばれていました。	利用者やご家族の中には「事業所で最期まで過ごしたい」と希望されている方もあるようだ。民家改修型のグループホームでスペースは限られており、「職員やご家族が頻繁に出入りすることで、他利用者への影響が気になる」こと等、看取り支援の経験から得たこと、又、課題について話し合い、次の取り組みにつなげていかれてほしい。
			(外部評価) 利用者の状態変化ごとにご家族と話し合いを持ち、かかりつけ医やご家族と協力し合って看取りを支援された事例がある。ご家族は、夜間泊まったり、日中も職員と一緒に看られた。看護師資格を有する職員に、24時間いつでも連絡がつくようにして、いざという時には駆け付ける体制を作り、職員の不安軽減にもつながるよう取り組まれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に一回、消防署の協力を得て行われる母体特養での救急救命基礎講習に参加したり、職員学習会や職員会議で勉強会を行いながら研鑽している。突発的に発生する事故や急変時に対しては、その場に居合わせたとき、慌てず落ち着いて対応できるよう、日頃からの心構えや更なる努力が必要である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日中と夜間の火災を想定しての避難訓練を年二回実施している。また、地震と津波を想定した訓練を初めて実施し、地域の方の協力もあり、意見等いただき参考にして検討している。また、運営推進会議において、愛南町消防本部防災対策課より「地震・津波災害について」の話をしていただいた。	
			(外部評価) 運営推進会議時、会議メンバーと地震と津波を想定して、高台にある観自在寺まで避難する訓練を行われた。昔、お寺の山門まで津波が来た記録があるようだが、できるだけ高いところまで避難できるよう訓練を行われた。避難場所や避難経路、時間等を調べ、日頃いろいろなコースを散歩されている。事業所内の非常口は片開きであったが、スムーズに避難できるよう両開きに改修されていた。又、避難通路が夜間は暗く、又、狭い箇所もあり、地域の方からの提案もあって感知式ライトを設置するように計画されていた。	事業所は海が近く、事業所の前は大きな川でもあり、地震発生から30分以内に津波がくると予想されており、利用者の避難誘導については、一番の協力者である地域の方達とともに避難方法を考えていかれてほしい。備蓄や避難所での過ごし方等、東日本大震災の教訓等にも習って、安全安心に向けた対策の検討を重ねていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員研修会や職員会議等のなかで職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応を心掛けているはいるが、時折自尊心を傷つけているのではないかとと思われる言葉遣いや対応がみられ、配慮が足りなかったのではないかとと思う時がある。	
			(外部評価) 運営推進会議には、事業所から口頭で利用者一人ひとりの名前と状況を報告して災害時の協力をお願いされている。事業所では、「職員と利用者の関係が近くなりすぎて、利用者個々の誇りやプライバシーを損なっていないか」と、気にかけておられる。	事業所自身の気付きは、ケア改善への最大の起点にもなり、この機会を活かして、日々の職員の対応や声かけについて利用者の立場に立って考えてみるような取り組みをすすめ、さらなるケアの質向上を目指していかれてほしい。居室のケア・排せつ用品の収納や整理についても、利用者の立場から配慮が必要な点はないか話し合い、取り組みにつなげていかれてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の思いや希望を汲み取り、出来る範囲で応えられるよう支援している。些細なことでも声をかけて利用者が自己決定できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 周辺の散歩やドライブ等、利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら対応している。畑の作物が気になる利用者には一緒に手伝ってもらったり、好きな時代劇や歌番組を楽しんでもらったり、自室で休んだり、本人の希望に添った支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人の好みに合わせてご家族が衣服を持参されている。外出時やお出かけするときは、好みの服を選択してもらい、お洒落や身だしなみに配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者ができる範囲のお手伝い(もやしの芽取りや豆のすじ取り等)して頂いている。利用者の機能に合わせ、食事形態の工夫を行い、自分で美味しく食べられるよう支援している。	
			(外部評価) 調査訪問時、利用者は職員と一緒に昼食に使用するレタスをちぎったり、食後は食器拭きをする利用者の様子もみられた。食事の際、職員は、利用者がご自分の力で食べられるよう見守ったり、介助しながら、一緒に食事をされていた。職員は利用者にお代わりをすすめられ、「わたし赤飯好きよ」と希望される方もおられた。毎朝には牛乳、おやつ等には自家製ヨーグルトをお出しして、便秘予防に努めておられる。畑で採れた赤シソで作ったゼリーが食後のデザートに上っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自己評価 母体特養の管理栄養士が献立表を作成。その献立を基に食事作りを行っている。利用者の状態に応じて柔らかくしたり、刻んだりと摂取しやすいよう工夫している。摂取量や水分量は常に確認し、栄養の偏りや水分不足に気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけを行い、利用者の状態に応じて見守ったり、用具を準備したり、介助を行っている。歯磨き後、口腔内を確認し、磨き残しがあれば再度ブラッシングを支援している。また嘱託医の歯科医師や歯科衛生士の指導や助言をいただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表を活用し、尿意の訴えない利用者は声をかけ時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援をしている。利用者の状態に合わせ、日中はトイレでの排泄を促している。</p> <p>(外部評価) 日中はトイレで排泄できるよう支援されているが、夜間は、目が見えにくくなったり、居室からトイレが遠いこともあって、居室にポータブルトイレを置いて使用している方もいる。日中、体を動かす時間を作ったり、朝食後はトイレに行くことを習慣付けて、自然に排便できるよう支援されている。ご自分で紙パンツ等を交換できるように、居室には、ご自分で取れるように置いておられた。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 食事やおやつに繊維質の多い食材や乳製品(自家製ヨーグルト)を取り入れている。体操や散歩等、身体を動かすことを日課とし、自然排便できるよう取り組んでいるが、なかには便秘薬を使用している利用者もいる。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 入浴前にはバイタル測定し、日中の様子を観察した上でご本人に希望を確認してから入浴していただいている。利用者の健康状態に合わせて入浴回数を調整し、清潔保持できるよう清拭を行っている。</p> <p>(外部評価) 毎日入浴される方や、1日おきに入る方がいる。重度化している利用者も1日おきに入浴されており、職員が2人で支援されている。利用者の状態をみて職員から、「浴槽に手すりを取り付けてはどうか」との提案があり、取り外しができる手すりを設置された。利用者が、浴槽に出入りしたり、温まる際に使っておられる。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者一人ひとりの状態を考慮し、日中の活動を促したり、自室で休息したり、夜間は希望により好きな時代劇や歌謡曲等、テレビを観て過ごしていただいている。ご本人の希望に添って安心してゆったり休めるよう配慮している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の処方箋等、利用者毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡したり、口元まで介助するなど、状態に応じて支援している。看護職員と医療機関との連携も図れている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや洗濯たたみ、畑仕事等、経験や出来る力を活かせるよう場面作りを支援している。また、自室で休んでいるときは、好きな歌を聴き、気分転換できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ホーム周辺の散歩やドライブ、食材の買い出しに付き添っていただいている。桜の花見や鯉のぼり見物、コスモス見物等に出かけ、季節感を味わっていただいている。介護度の重度化により、年々外出の機会が減っているのも現状である。 (外部評価) 散歩時には、近くの川で鯉やアヒルを見たり、近くのお寺にお参りに行かれていた。近くの公園にお花見に行かれた時には、天気等もみて出かけられ、カレーを持ってお花見に出かけることもある。カレーは利用者がお好きで、喜ばれるようだ。時には、庭でお茶を楽しまれることもある。管理者は、「介護度が重度の利用者についても、希望を引き出して出かけられるよう取り組みたい」と話しておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人が所持している利用者はおられないが、外出時に財布に少額所持していただき、買い物時にはご本人より直接支払っていただくこともある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望により、職員がダイヤルして直接話していただいている。また、ご家族や知人から掛かってきた電話にもご本人に変わって話していただいている。利用者ご自身が書いた手紙をご家族へ送り、喜ばれていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 古い民家を改修しているため、トイレや食堂等居住空間が狭いが、慣れ親しんだ我が家の延長のような居心地の良い安心した暮らしをしていただいている。玄関や居間には季節毎の飾り付けやお花を生け、楽しんでいただいている。</p> <p>(外部評価) 居間の窓際にはゴーヤカーテンを作っておられ、実を収穫できるようになっていた。庭にはベンチやテーブル、いすが配され、庭にはひまわりや皇帝ダリアが植えてあり、裏の畑には、夏野菜やサツマイモが育っていた。玄関には、職員が持って来られたあじさいを生けておられたり、七夕の笹飾りが飾られていた。民家改修型のグループホームでスペースは限られているが、ダンスやソファを利用者は伝いながらご自分の力を使って歩いておられる。居間の扉には、利用者の写真に「みしょうの里の家族です」書いて飾られていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居間を共用の場とし、利用者同士の交流に役立っている。また、自室を利用し、気ままに過ごしていただけるよう配慮している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 愛着のあるテーブルを自室に置いたり、ご家族の写真や観葉植物、ぬいぐるみ等を飾り、居心地良く暮らせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 使い慣れたダンスを持ち込んでおられ、ご自分で整理できるよう「下着・上着」と示しておられた。利用者が子どもの頃の写真や最近の写真も飾られていた。居室から畑の野菜を眺められる方もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 古い民家を改修した造りのため、利用者にとっては馴染みがあり、落ち着ける空間となっている。段差のある箇所もいくつかあるが、見守りながら安全に生活が送れるよう支援している。</p>	